

今回は、粉体技術とは少しジャンルの違う展示会について紹介する。米国ニューヨークの国際展示会場で、AHR2014 (Air conditioning, Heating and Refrigerating)という空調・加熱・冷凍に関する省エネ・グリーン技術展が2014年1月21日から3日間開催され、筆者が出展企業に協力して参加したので、その模様を報告したい。

1. 米国AHR2014開催

この展示会は、毎年1月に、会場を変えて開催されている、非常に参加者の多い展示会である。

開催年	開催地
2011	カリフォルニア州ラスベガス
2012	イリノイ州シカゴ
2013	テキサス州ダラス
2014	ニューヨーク州ニューヨーク

ニューヨークマンハッタンのタイムズスクエアからほど近いJacob Javits Convention Centerで開催され、1月という天候が悪い時期にもかかわらず、世界中から、3日間の会期中に、385,000sf (8.7エーカー、10,500坪、3,850小間スペース=1小間100sf換算)のブーススペースに、42,991人の来場者、18,219人の出展者が押し寄せた、マンモス展示会であった。

今回、初日が大雪で、2日・3日目も最低温度が零下10℃となるような大変な悪天候であったにも関わらずの盛況で、何もこんな寒い時期に展示会をしなくてもよいのではと思うのだが、どうも理由があるらしい。主催者の来場者へのアンケートで良い開催時期を尋ねたら、1月後半が良いと答える人が最も多かったそうである。理由は、1年の内比較的工事のない、かつ、次の設備の検討を始めるのにもっともよい時期なのだそうである。

2. 粉体技術との関連

AHRを空調設備展としてとらえると、粉体技術と関連がないと思ってしまうが、省エネ・グリーン技術展と考えて、出展機器のジャンルを見ると、案外関連のある技術も展示されている。

- ① 大気汚染防止機器、煙感知技術 (粉じんモニターもこのジャンルに)
- ② 空気清浄機器 (除塵装置、ウェットスクラパーも近い)
- ③ エネルギー回収
- ④ 加湿・乾燥機 (粉体プロセスで湿度をコントロールする必要がある時がある)
- ⑤ ノズル (噴霧乾燥に関連)

- ⑥ 騒音対策 (粉体プロセスでも共通の問題)
- ⑦ 粒子制御 (particle control)
- ⑧ 配管・保温関係 (粉体プロセスでも共通)
- ⑨ 地震関連技術 (地震国日本の技術が生きる)
- ⑩ センサー類
- ⑪ 固液分離、固気分離
- ⑫ チューブ射出製形機
- ⑬ バルブ

これら出展技術を見ると、粉体技術と遠くで関連する技術もあると考えられる。また、考え方を改めて、粉体とは違った切り口で自社の技術を見つめ直し、全く新たな用途が他にあるかもしれないと考えて、新しい展示会を調査してみることも大切だと思う。開発者は開発した技術に思い入れがあり、それを何とか世に出したいと思うものであるが、開発した技術が開発者の意図とは異なった方向で世の中に受け入れられることもある。

3. マーケティングの役割

経営学をマーケティング理論に広げたピータードラッカー氏は、マーケティングの究極の目的は営業しなくても物が売れるようにすることと語っている。海外に知られていない日本の技術を知ってもらい、売れるようにするためには、マーケティングが欠かせない。特にアメリカのような広い地域で、どこで、誰が、どんな技術をいつ必要としているかを把握しにくい地域では特に重要である。すでに市場がある製品はまだ売り方を予想できるが、まだ日本(自社)の技術市場が育っていない場合は、使い方から知らせなければならない。そのためにはマーケティングの力が必要である。前回も述べたが、現代は、マスマーケティングからニッチ・ターゲットマーケティングの時代になっており、新たな顧客を創造する以上に重要と言われる、既存の顧客の要望を細かく分析し、個別に対応しているかどうかを今まさに問われている。

また、既存の顧客の要望にこたえるだけでも不十分で、絶えずイノベーションは欠かせない。イノベーションで新たな価値を提供し、マーケティングでそれを広く世界に知ってもらうという、2本立ての精神を貫くことが企業成長のカギを握っているといえよう。

4. 展示会に行ってみよう

インターネットで得られる情報は一部であると考え、積極的に新しい国内外の展示会に出かけてみれば、新たな気付きも得られるはず。世界中の展示会を広く見直してはどうだろうか？